

エアゾール製品の小ロット受託製造を行っている日本コムテック

た」と振り返る。だが、に「なる見込みだ。あらためて任組みを聞く

# 医療分野で産学官連携 フォーラム設置

機器・サービスの有効性実証

21.11.23

【高松】四国経済産業局は、地域医療の高度化や個人の健康維持を支援することを旨とした産学官連携の取り組み「ヘル・スクエア・イノベーション・フォーラム」を立ち上げ、実用的なプラットフォームを構築する。健康

野での新産業創出や社会的課題の解決を目指す。こうした健康・医療面の活用を進める産学官連携の組織づくりは珍しいという。同フォーラムの事務局は香川大学瀬戸内圏研究センターに置き、座長は同センターの原量宏特任教授が務める。参加企業は医療関連プロゲラムを手がけるミトラ（高松市）や四国電力グループで情報通信を扱うSTNet（同）、検査装置を製造するエコーコーポレーション（徳島県吉野川市）などの22社。四国内企業に加え、富士通などの大手企業も参画する。

高松市役所が身分証に高松琴平電気鉄道（高松市）のICカード乗車券「Iruca（イルカ）」を導入するなど交通カードの多機能化で街の活性化につなげる動きが目立つ。同フォーラムの創設は、香川県内の医療機関などでイルカを診療券代わりにすることや個人の

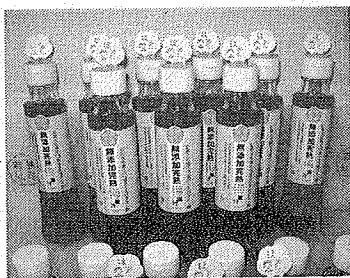
かきなどを客観的に判断できるように記述するの活用する近づく。生利用化製造など業者が対ユーザーの半額以上の条件が託費の年60で、今年年度途中月程度と12月21

# 農工商連携の今

★22★

福井県の若狭地方は梅の産地。この中でも栽培が盛んな若狭町では「紅映梅（べにさしうめ）」と呼ばれる品種を中心に生産している。種が小さく、果肉が多く、果皮も柔らかいという特徴がある。古くから梅干し用などとして味が評価されてきた。この名産を武器に、地域の異業種が手を携え、新たな取り組みを始めた。新規需要掘り起こしによる地域農業の活性化や、地域ブランドの確立を

## 梅から果汁・調味料開発



映梅の果汁100%の「無添加完熟梅果汁」や「梅昆布ポン酢」など5種類。「若狭紅映FUMELY（フーメリ）FOOD」をブランドで展開する。

傷がついた梅や規格外の梅を地元農家から買い取り、有効活用する。初年度は原料約20トンを確保した。従来、梅の加工品は梅干しと梅酒がほとんどで「新たなジャンルの市場を創造するのが狙いだ」（木野秀樹島浜酒造）。梅果汁はかんきつ果汁と同様に料理にかけたり、焼酎割りに使ったりできる。独自

若狭町産紅映梅から作る梅果汁

紅映梅は名の通り、太陽光に当たる青梅の側面がほんのり赤く色づく。かつては全国各地で作られたが、栽培に手間がかかり、単位面積当たりの収量が少ないことから敬遠され、今ではほぼ福井県のみで栽培されている。うち7割以上を若狭町で産出する。

農工商連携の委託先を募集

## 名産品武器に需要創造

の低温酵素分解技術で抽出し、クエン酸やミネラルを多く含む。健康や食の安全を重視する30~40代の女性にターゲットを絞る。現在、福井県内の土産物店などで販売。健康食品メーカーへの果汁の供給やOEM（相手先ブランド）生産も始めた。今後は百貨店などにも出荷する計画で、ギフト市場も開拓する。商品拡充などにより、事業全体で2~3年後に年間2億円規模の売り上げを目指す。

参加するのはJAPANブランド育成支援事業に取組む北は小樽商工会議所（カラシ製品）から南は伊江村商工会（鴨）まで全国26プロジェクト。フェリシモデザインハウスで実施するのは今年1月から同5月に次

【徳島】徳島県は農工商連携による研究・技術開発や販路開拓の取り組みを推進する「農工商連携体創出促進事業」の募集を始める。温室効果ガス排出削減や資源の有効活用面で循環資源の再

農工商連携の委託先を募集

## 中小政策

トとKYで映像研

# 自動旋盤、中国で増強

モデル「Nシリーズ」を追加。部材の現地調達比率も高めることで、従来の低価格機からさらに2割程度安く見通す。

柔飲物、瞬時に創

潮目が変わってきた。西嶋尚生ツガミ社長としている。成長市場を巡り、欧州勢、韓国、台湾などのアジア勢力との競争も熾烈になってお